



更なる成長・飛躍に向けて

専務取締役

桐山 哲夫

山陽特殊製鋼技報第14巻発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

世界経済は、米国の成長、中国の経済発展に支えられ拡大を続けており、本年も5%前後の成長が見込まれています。また、中期的にも、中国、インド等のBRICS諸国に続き、VISTA諸国での新たな経済発展が見込まれるなど、力強い成長を続けていくものと思われまます。

このような経済成長を受け、世界の粗鋼生産は平成11年までは景気循環に連動しながら7~8億tの範囲内で留まっていたものが、平成12年に初めて8億tを超えて以来、急速に拡大し、平成18年には12.5億t、更に平成19年には13億t超まで伸長すると見込まれています。

日本の粗鋼生産も、平成15年に1億1千万tを超え、以来、高位の生産が続いています。中でも、特殊鋼生産は、平成13年度以来5%前後の伸びを続け、平成18年度は2118万t、平成19年度は2149万t（熱間圧延鋼材）に達すると見込まれており、今後とも、旺盛な需要とその競争力の高さから引き続き拡大が続くものと思われまます。

一方、このような世界的な経済成長に伴い、従来から言われてきた環境・資源問題が、地球規模の焦眉の課題となってまいりました。本年2月に公表されたIPCCの第4次評価報告書では、21世紀末の世界の平均気温上昇が、化石エネルギーを重視しつつ高い経済成長を実現する社会では約4.0℃、環境保全と経済発展が両立する社会では約1.8℃と社会構造の差が将来の地球環境に大きく影響を及ぼすであろうと分析しています。持続可能な調和の取れた成長を図るには、鉄鋼業も製品の高機能化、リサイクルの推進、エネルギー効率の向上等を推進していかなければなりません。また、資源問題は、すでに鉄鋼原料価格全体に大きな影響を及ぼしております。特に昨年後半からの鉄屑やNi等の合金鉄の価格高騰は、より現実的な問題として、私達に喫急の対応を迫ってきています。これらの環境・資源問題は、限りある地球資源を世界社会がどう活用し、発展を遂げるかという意味で、まったく同質の課題であると考えられます。

このような課題に対し、当社は、製造面では、すでに世界最高水準にある省エネ、高歩留りの製造技術を更に向上させてまいります。また、製品面では、各種軸受用鋼や高合金鋼、高温高圧な環境（高効率な環境）に耐える耐熱配管用鋼管、長期継続的な転動に耐える風力発電用鋼などの「高信頼性鋼」の性能を更に高めるとともに、当社の誇る高純度鋼製造技術を駆使した省エネ・省資源の商品開発を一層加速させてまいります。

当社は鉄屑を鉄源とする循環型リサイクル企業であり、今後とも増大する需要に的確に対応するだけでなく、限りある高価な地球資源をその最大限の機能を発揮する鋼に創り変えることで、社会や需要家皆様の負託に応え、社会的責任を果たしてまいります。品質、納期、効率、開発、環境対応、すべてに渡り世界をリードしていく特殊鋼メーカーとして、更なる成長・飛躍を図っていく所存であります。

引き続き、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。